

多くの人たち、 しびれるような発見に 出合えたことに感謝。

子どもの頃は今のような職につくとは考えてもいなかったです。ただの野球好きで、わんぱくな子どもでしたから。

子どもの頃は外に出て遊ぶのが大好きでした。特に野球が好きで、小学校から高校までずっと野球漬け。来る日も来る日も野球一筋の子どもでした。正直、6大学に進んで野球を続けたいくらいでしたが、それも運命ですかね。

受験失敗で野球を断念、本当に残念でした。今でも大切な思い出は、弘前高校時代、秋の高校野球大会決勝の秋田高校戦。惜しくも準優勝でしたが、延長26回（次の日再試合）0対1の試合は自他共に認める歴史に残る名勝負でした。



高校の頃、野球に夢中だった松江教授

将来の道へ

踏み出した第一歩。

大学での恩師との出会いがむしゃらになりました。

野球の道も途絶え、弘前大学理学部（現・理工学部）に入学。実は、大学時代は教育分野を目指していたんです。ただ、先生と喧嘩しましてね（笑）。教員免許もとれず卒業まで進路がまとめられなかったんです。あの頃は誰もが将来を決められないまま、ただ大学院へ進学を考える風潮があった時代でしたから、私もご他間にもれず、漠然とその道へ向かおうとしていました。

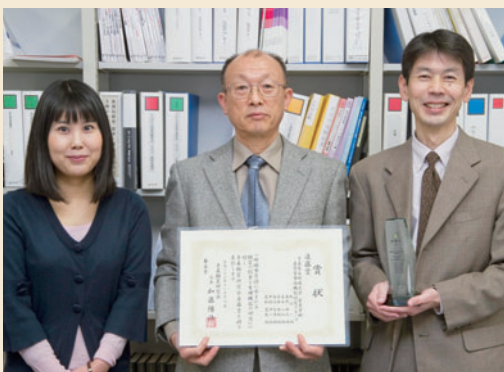
そんな時出会ったのが、当時化学の専門だった松枝先生。「いつでも実験室にきて研究してもいい」という心の広い熱心な方でした。先生も付きあってくれたのがうれしくて、布団を持ち込み1年間、泊り込みで勉強しました。また、英語に精通していなければ大学院に合格できないといわれた時代だったので、



がむしゃらに訳本を何度も読んだり、試験問題を取り寄せたりして。おかげで、北海道大学大学院に入学できました。



大学時代の友人と



【研究成果】

イカ墨の研究・シジミエキス肝助の開発・アピオスの糖質と血圧降下作用・リンゴペクチンのフラボノイド吸収促進作用・ガズミの糖質と糖尿病に対する生理機能・エチゼンクラゲの有効利用・ボタンイボタケの抗腫瘍物質

【学内活動】

テニスが好きでサークル活動にも熱心でした。何にでも一所懸命な先生はテニスも一所懸命。市民大会ダブルス準優勝の経験も。

「ラリーが続くとテニスはおもしろい。ぜひ学生のみなさんにも楽しんでほしい。」と語る。

●ポスター・アワード受賞

2011年11月20日から23日に台湾・台北で開催された国際学会International Conference on Food Factors (ICoFF2011)に参加。その中で優れたポスター発表を決める「ポスターアワード」が行われ、発表した「Isolation and identification of telephantin O and vialinin A with anticancer activity from telephora aur antiointincta.」が45件のアワードのひとつに選ばれました。